第4期科学技術基本計画及び
男女共同参画基本計画(第3次)への提言
-その２-

「ポスドク等任期付職のライフイベント，及び
将来設計支援に関する要望提言」

平成21年11月11日

科学技術系学協会

第４期科学技術基本計画及び男女共同参画基本計画(第３次)への提言
−その２−
「ポスドク等任期付職のライフイベント，及び
将来設計支援に関する要望提言」

平成21年 11月11日
科学技術系学協会

男女共同参画学協会連絡会による「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」（平成20 年5月，平成19 年度文部科学省委託事業報告書）の結果から，女性研究者が子育てとキャリア形成の両立に困難を抱えるとともに，ポスドク等任期付職が家庭･育児や将来の職に対して不安を有している現状等が明らかになりました。ポスドク等任期付職は．男女を問わず，将来の日本の科学を率いるリーダーとなることが期待されるとともに，今現在の科学技術活動の根幹を支える重要な役割を果たしています。今後，政府におかれましても，我が国の科学技術人材の確保及び多様性・創造性の向上等の観点から，第4期科学技術基本計画及び男女共同参画基本計画(第3次)に以下の観点を盛り込まれますよう，要望いたします。

１．日本学術振興会特別研究員RPD制度の拡充
２．ポスドク等任期付職のライフイベント支援の推進
３．ポスドクのための常勤職の新設・増員及び多様な職種への就職支援
４．子育て期における男女研究者に対する「同居支援」の推進

[要望の趣旨]

１．　日本学術振興会特別研究員RPD制度の拡充

日本学術振興会特別研究員RPD制度は出産･育児のためにキャリアを中断したものが研究復帰することを容易にする制度として高く評価されます。しかし，育児との両立をはかりながら研究業績を挙げるには2年の任期は短く,また,採択者数も限定的です。このため，任期の3年間への延長，及びRPD定員の増員を要望いたします。

２．ポスドク等任期付職のライフイベント支援の推進

学振特別研究員やさきがけ研究員など，独立研究型のポスドクで整備されているライフイベント後の復帰支援制度は，特に休業や時間短縮勤務期間に相当分の任期が延長される点においてキャリア継続の大きな助けとなっています。そこで，すべての任期付き研究職において（１）ライフイベントに伴う研究中断期間相当の任期延長，

（２）研究終了までのすべての期間について短時間勤務の選択，及びそれに伴う任期の延長を実現することを要望いたします。さらに，単年度雇用されている任期付き研究職では，研究とライフイベントの両立は，このような制度が整備されても尚困難な状況にあります。そこで，単年度雇用形態見直しの検討を要望いたします。

３．ポスドクのための常勤職の新設・増員及び多様な職種への就職支援

ポスドク制度は研究者のキャリア形成の一過程として急速に拡大し，次世代育成に貢献しています。これを受けて，ポスドクの増加に見合った常勤職の増員を要望いたします。同時に，外部資金の獲得や産学官連携活動等の研究に不可欠な活動を支援する研究管理専門職，高度な知識と経験を要するデータの収集・分析を行う研究支援専門職，研究成果を広く一般に普及させるアウトリーチ活動専門職など学位取得者を活用する常勤職の新設を要望いたします。さらに，大学における教育・研究職に限らず，企業の技術職など，多様な職場・職種への就職支援を要望いたします。

４．子育て期における男女研究者に対する「同居支援」の推進

ポスドク等若手研究者の流動性を上げることは，研究者の活力を維持・向上させる上でも重要なことです。しかしながら，この世代は，同時に子育て世代でもあります。配偶者を持つ子育て期の研究者が「同一地域」でキャリアを積み，家族を育めるように多様な「同居支援」策の推進を，国，及び助成機関に対して要望いたします。

科学技術系学協会

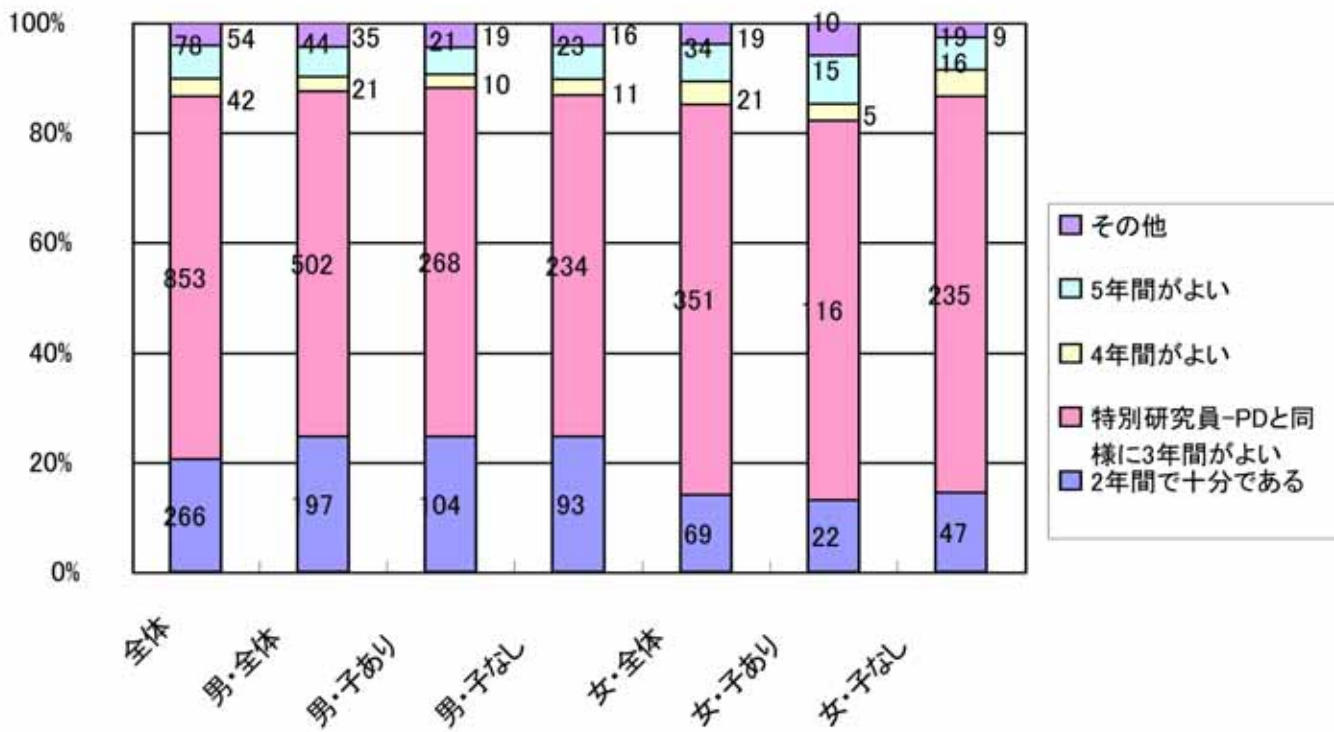
1. 化学工学会
2. 高分子学会
3. 錯体化学会
4. 種生物学会
5. 生態工学会
6. 地球電磁気・地球惑星圏学会
7. 地盤工学会
8. 電子情報通信学会
9. 日本育種学会
10. 日本遺伝学会
11. 日本宇宙生物科学会
12. 日本化学会
13. 日本金属学会
14. 日本原子力学会
15. 日本建築学会
16. 日本細胞生物学会
17. 日本獣医学会
18. 日本女性科学者の会
19. 日本進化学会
20. 日本神経科学学会
21. 日本森林学会
22. 日本生化学会
23. 日本生態学会
24. 日本生物物理学会
25. 日本生理学会
26. 日本蛋白質科学会
27. 日本鉄鋼協会
28. 日本天文学会
29. 日本糖質学会
30. 日本動物学会
31. 日本バイオインフォマティクス学会
32. 日本発生生物学会
33. 日本繁殖生物学会
34. 日本比較内分泌学会
35. 日本物理学会
36. 日本分子生物学会
37. 日本木材学会

第4期科学技術基本計画及び
男女共同参画基本計画(第3次)への提言
-その2-

「ポスドク等任期付職のライフイベント,及び将来設計支援に関する要望提言」

参考資料

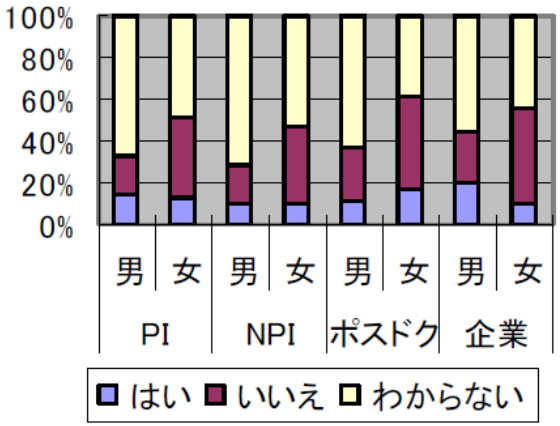
RPD研究員の任期



(出典)　日本分子生物学会「日本学術振興会･特別研究員-RPD制度に関するアンケート」(平成18年8月)

RPDの任期を特別研究員-PDと同じ3年間とすることを求める割合が非常に高い。

提言その2　項目2　資料

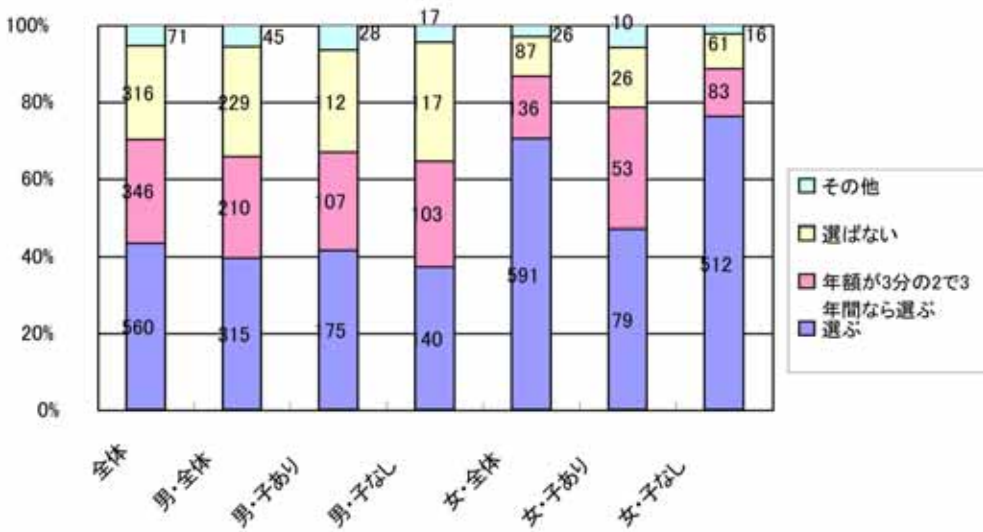


任期付き職では、育児休業に伴う任期延長が不可の割合が高い。

図4.19　任期付き職の育児休業による任期延長の可否

(出典)　男女共同参画学協会連絡会　「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

短時間勤務制度 (例えば期間4年、年間支給額半分) があれば選択するか



短時間勤務を望む割合が特に女性では非常に高い。

(出典)　日本分子生物学会「日本学術振興会・特別研究員-RPD制度に関するアンケート」(平成18年8月)

提言その2　項目3　資料(1)

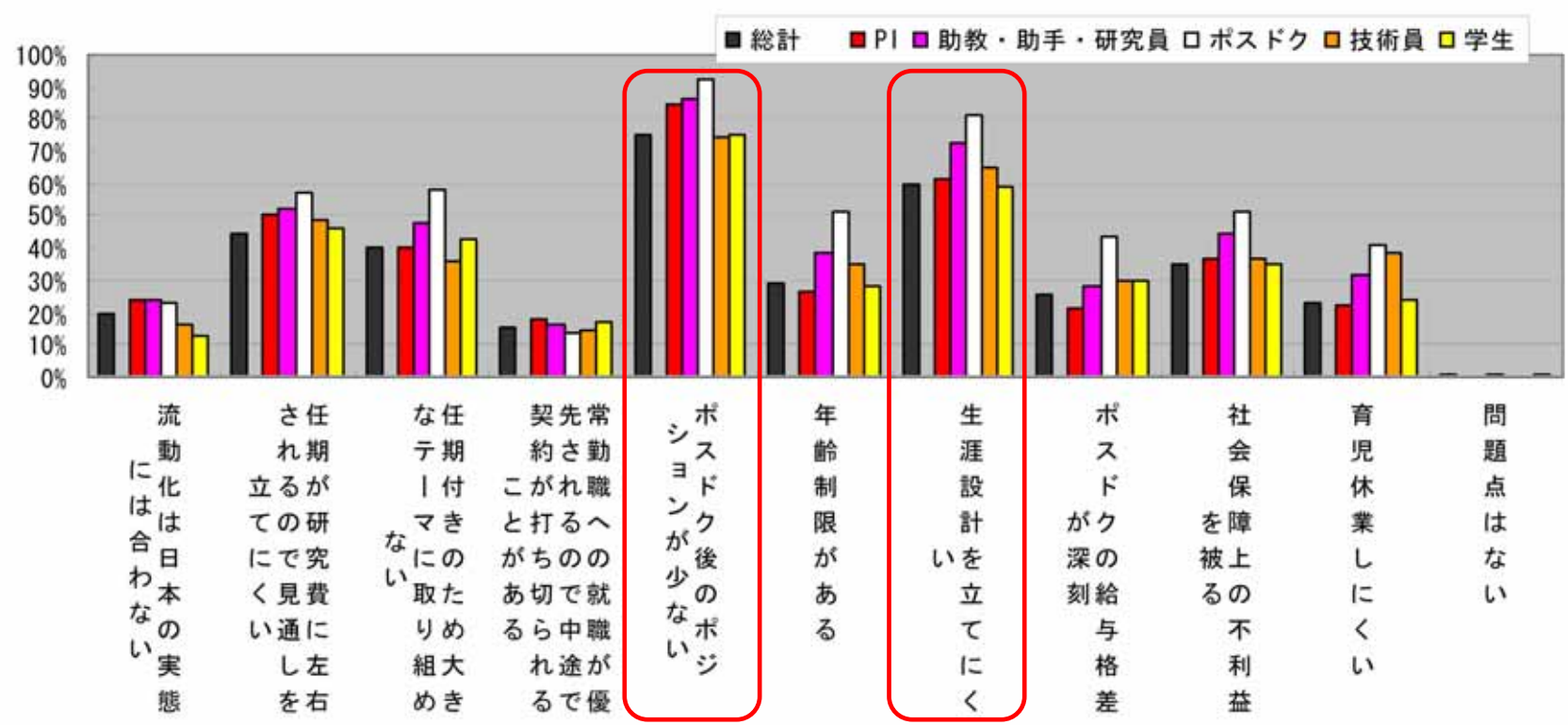


図 1.52　ポスドク制度の問題点

(出典)　男女共同参画学協会連絡会 「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

ポスドクの問題点として、
ポスドク後の職の不安をあげる割合が非常に高い。

提言その2　項目3　資料(2)

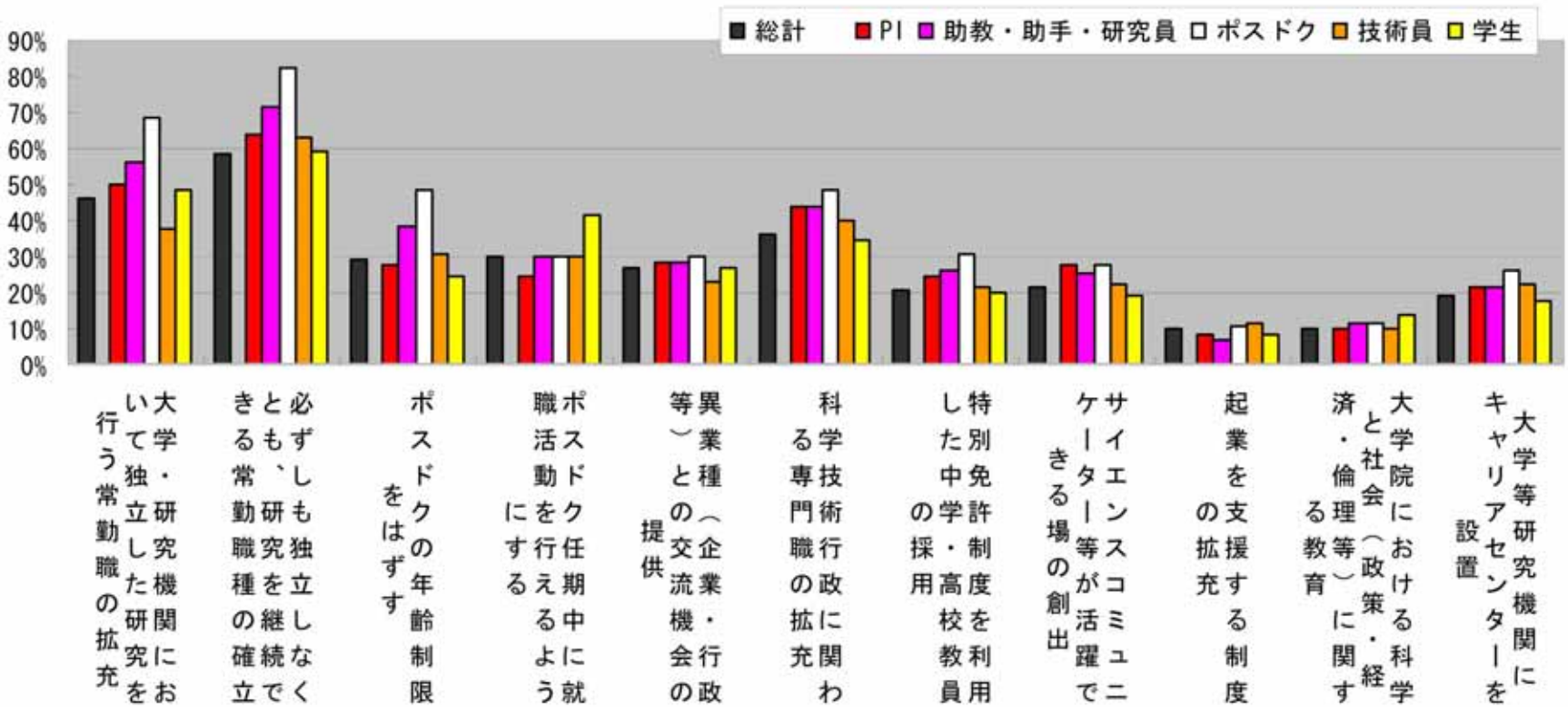


図 1.53 ポスドク後のキャリアパス確保に必要なこと

(出典) 男女共同参画学協会連絡会 「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

ポスドク後のキャリアパス確保策として、
研究支援職など幅広い職を求める割合が高い。

提言その2　項目4　資料(1)

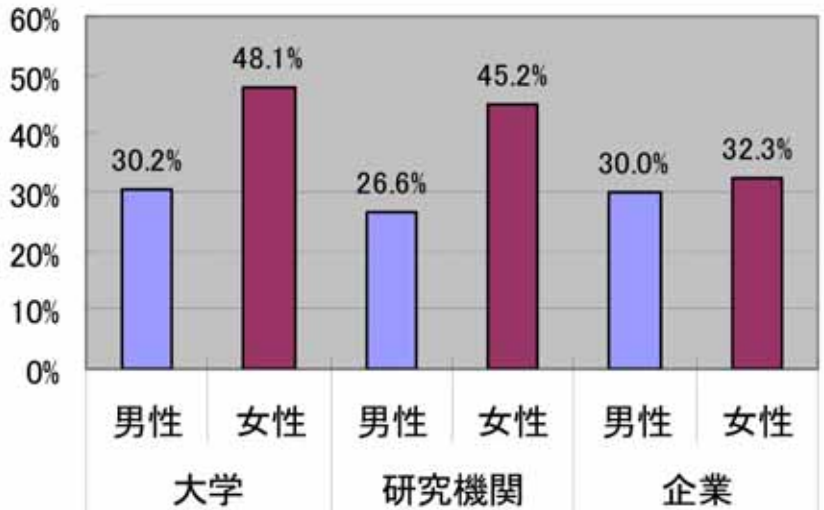


図 1.64　単身赴任経験者の有配偶者に占める割合

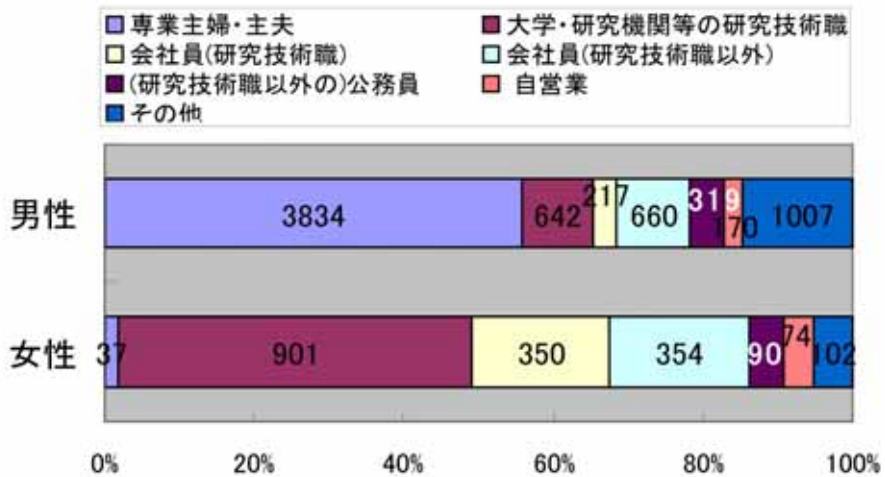


図 1.60　配偶者の職

(出典)　男女共同参画学協会連絡会 「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

女性研究者の単身赴任経験割合が、男性と比較して15%近く高い。
また、女性研究者の配偶者の66%が男性研究者である。

提言その2　項目4　資料(2)

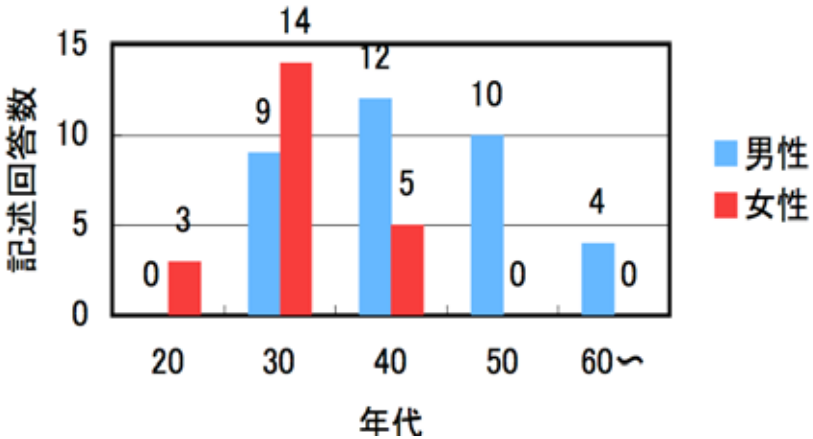


図 6.4 長時間勤務・残業は両立を阻む

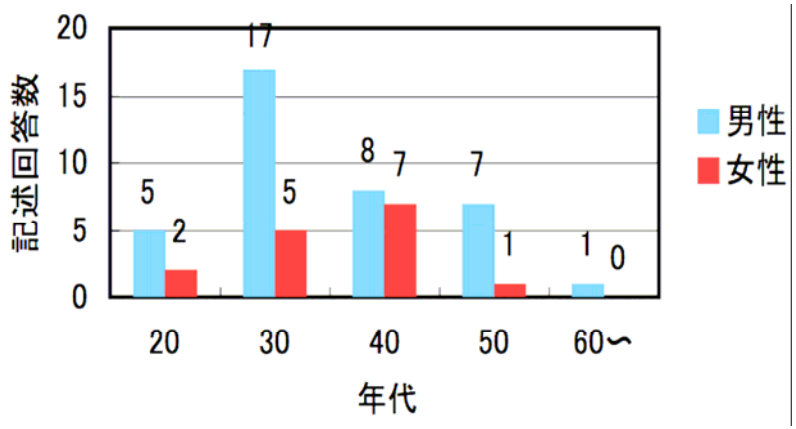


図 6.5 家族と同居・同じ地域に異動を希望

(出典) 男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における
男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

全回答者の約2％が、<u>アンケートの自由記述欄</u>に勤務時間の弾力化や家族との同居を望む記述を記入した。特に、30代、40代に多く、男性にも多い。
(全回答者数：男性 1847名、女性 988名)